

科目名	オペラ実習Ⅳ	形態	実習 オム ニバ ス	開講期	秋学期
担当教員	松下 雅人・森 雅史・池山 奈都子	単位	1	年次	4

＝授業科目の目標＝

オペラの舞台上で求められる身体表現とオペラ作品に取り組む為のアプローチをひとつのオペラ作品を通して学ぶことを目標とする。歌うだけではなく、様々な側面からオペラ制作に携わる事で、協調性や舞台制作の為の知識、技術も併せて養う。

＝履修の条件と学習の方法＝

- ・割当てられた役の譜読みを事前にしておくこと。立ち稽古前には暗譜をしておくこと。
- ・作品を自ら訳し、図書館を積極的に活用し、作曲家や作品の背景を事前に調べ、キャラクターの創作や演技に役立てること。
- ・辞書を使用するので、毎回の授業に持ってくること。

＝授業内容＝

- 1回 ガイダンス：シラバス（講義の目標や内容）の確認。音楽稽古
- 2回 暗譜チェック、立ち稽古
- 3回 合唱シーン中心稽古
- 4回 ACT1 稽古（その1）
- 5回 ACT1 稽古（その2）
- 6回 ACT2 稽古（その1）
- 7回 ACT2 稽古（その2）
- 8回 ACT1 通し稽古＋ノーツ＋直し稽古
- 9回 ACT2 通し稽古＋ノーツ＋直し稽古
- 10回 通し稽古（A）
- 11回 通し稽古（B）
- 12回 通し稽古（衣裳付き）（A）
- 13回 通し稽古（衣裳付き）（B）
- 14回 会場にて仕込み、セッティングなど
- 15回 会場にて、場合たり（A）（B）、ゲネプロ（A）（B）
- 16回 会場にて本番（A，B）

- 進み具合により内容変更がある場合は授業内で指示致します。
- 立ち稽古の際は役柄により稽古着の用意が必要となりますが、授業内で指示致しますので各自で用意して下さい。

=成績評価の方法と評価の基準=

授業での研究姿勢と本番までの個々の理解や成長の度合い、出席状況など踏まえて総合的に判断する。

=テキスト（必携）=

特になし